

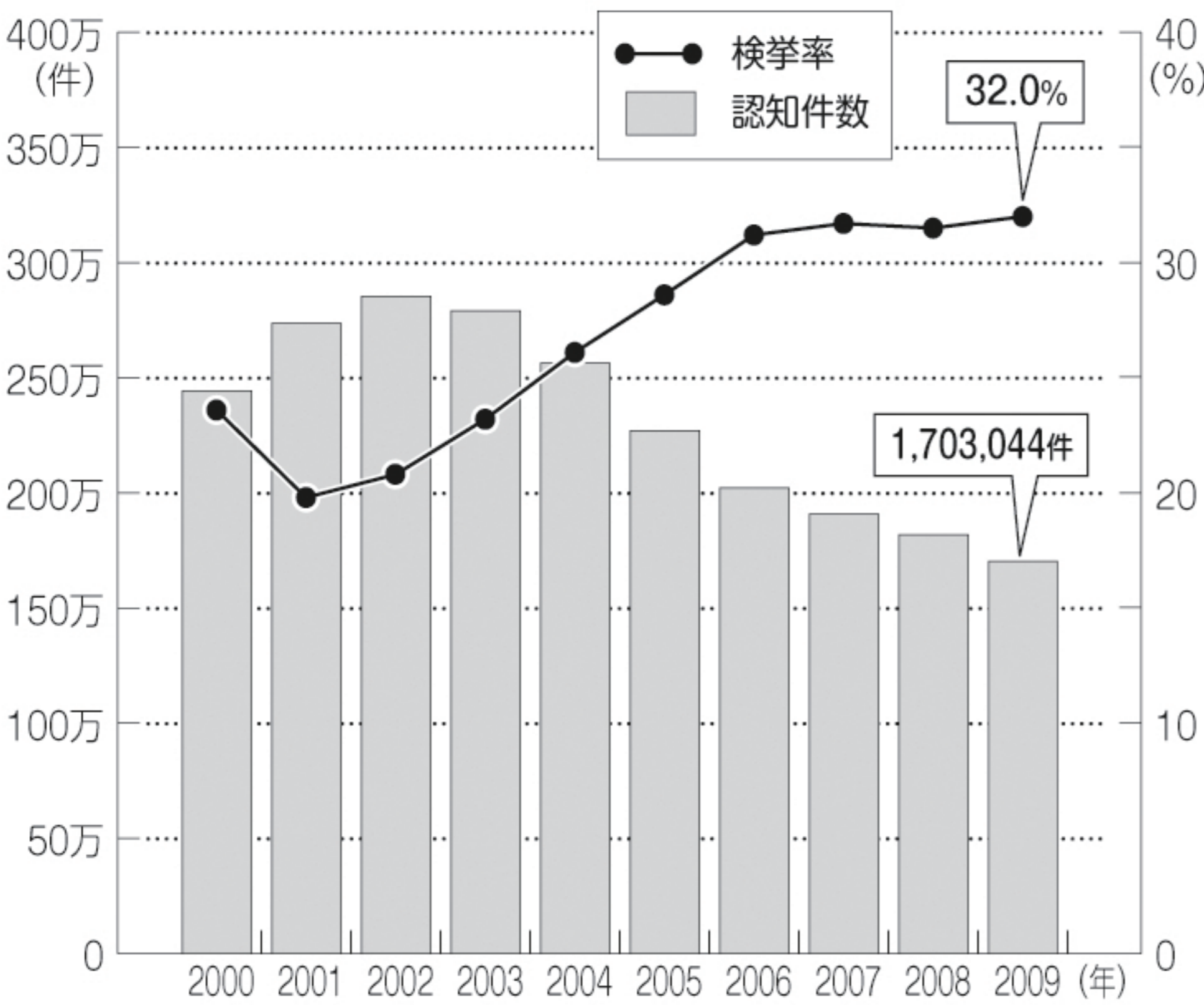
安心・安全 info

発行：自然社
〒064-0914
札幌市中央区
南14条西8丁目1056番1
Tel.011-562-0606
Fax.011-562-0808

http://www.shizen-sha.co.jp

2010.5

刑法犯の認知件数・検挙率の推移



統計は警察庁の資料より

平成21年 刑法犯の情勢

認知件数で「詐欺」が大幅に減少 コンビニ強盗が統計を取り始めて以降最多に

警察庁は先ごろ、平成21年の「刑法犯の認知・検挙状況」(確定値)を発表しました。

これによると、認知件数は170万3044件で前年に比べ11万4979件(6.3%)減少、検挙率は32.0%で前年に比べ0.5ポイント上昇した。また、検挙率は32.0%で前年に比べ0.5ポイント上昇した。また、検挙率は32.0%で前年に比べ0.5ポイント上昇した。

「コンビニ強盗」が統計を取り始めて以降最多に増加している。前年に比べ目立って増加しているのが「強盗」で、4512件を数え、234件(5.5%)の増加となりました。中でも増加が顕著なのは「コンビニ強盗」で897件、前年比286件(46.8%)の大幅増加となり、統計を取り始めた2004年以降最多となりました。

一方、「殺人」は、1097件で前年に比べ203件(15.4%)減少、戦後最少となりました。また「詐欺」は、取り締まりが強化された「振り込め詐欺」の減少もあり、4万5162件の認知件数で、前年比1万9265件(29.9%)減となりました。

振り込め詐欺は6割以上減少

「振り込め詐欺」について見ると「オレオレ詐欺」の認知件数は3057件で前年に比べると4558件(59.9%)と半減、

被害額は約52億266万円で、ほぼ3分の1にまで減少しました。

また、「架空請求詐欺」の認知件数は2493件、前年に比べ760件(23.4%)減で、被害額は約31億8229万円(11.3%)減となりました。さらに、「融資保証金詐欺」と「還付金等詐欺」の認知件数、被害額も減少しました。

そのため、「振り込め詐欺」全体の認知件数は7340件、被害額は約95億円で、共に前年比6割以上の減少となりました。

万引きは増加、目立つ高齢者

「万引き」は14万9892件を数え、前年に比べ4463件(3.1%)増加しました。かつて少年による犯行が多数を占めていた万引きですが、最近では高齢者によるものも目立っており、全体に占める割合はともに25%を超えています。

このほか前年と比べて認知件数が増加したものは、「オートバイ盗」や「途中ねらい」などです。

街の安心・安全を守る

防犯ボランティアのいま

警察庁は、地域住民による防犯ボランティア活動を支援するため、平成16年度から21年度までに全国で800地区を指定し、「地域安全安心ステーション」推進事業として防犯ボランティア等に対してパトロール用品の無償貸与等を行ってきた。

このほど、こうしたボランティア活動への今後の支援のあり方を探るため、同事業指定地区の防犯ボランティア団体のリーダーや地域住民に対してアンケート調査を実施しました。

調査期間／平成21年12月～22年4月、有効回答者数／防犯ボランティア団体代表者760人・地域住民8千人

そこで、このアンケート調査の結果をもとに、防犯ボランティアの現状を見てみました。

活動時間帯は「午後の下校時間」が最多

防犯ボランティア団体のリーダーへのアンケート調査結果によると、団体の1か月当たりの平均活動日数は「20日以上」が39.7%と最も多く、次いで多いのが「2日以上5日未満」(21.1%)です。また、1日当たりの平均活動時間は「1時間以上2時間未満」が44.9%と最も多く、次いで「2時間以上4時間未満」が39.5%を占めています。そして、最も多く活動している時間帯は「午後6時～午後10時頃」が80.3%と最も多く、次いで「午後10時以降」が8.4%です。

地域住民の多くの評価は「子どもの安全確保に有効」

一方、指定地域の住民に対するアンケート調査の結果を見ると、防犯ボランティア活動の効果については、「子どもたちの安全確保に役立つ」という評価が最も多く、ボランティア団体と同様の結果となっています。このほか「不審者の出没減少に役立つ」と「犯罪総数の減少・抑止に役立つ」との回答も多く見られます(図2参照)。

さらに、ボランティア活動の効果については「子どもたちの安全確保に役立つ」という評価が最も多く、次に多いのは「地域の防犯意識の高揚に役立つ」という評価です(図1参照)。

リーダーと地域住民のアンケート調査結果を照らし合わせると、防犯ボランティア活動は「子どもの安全確保」に有効であると捉えられており、子どもの見守りや不審者の監視などで大きな役割を担っていると思われま

図1 団体のリーダーへのアンケート

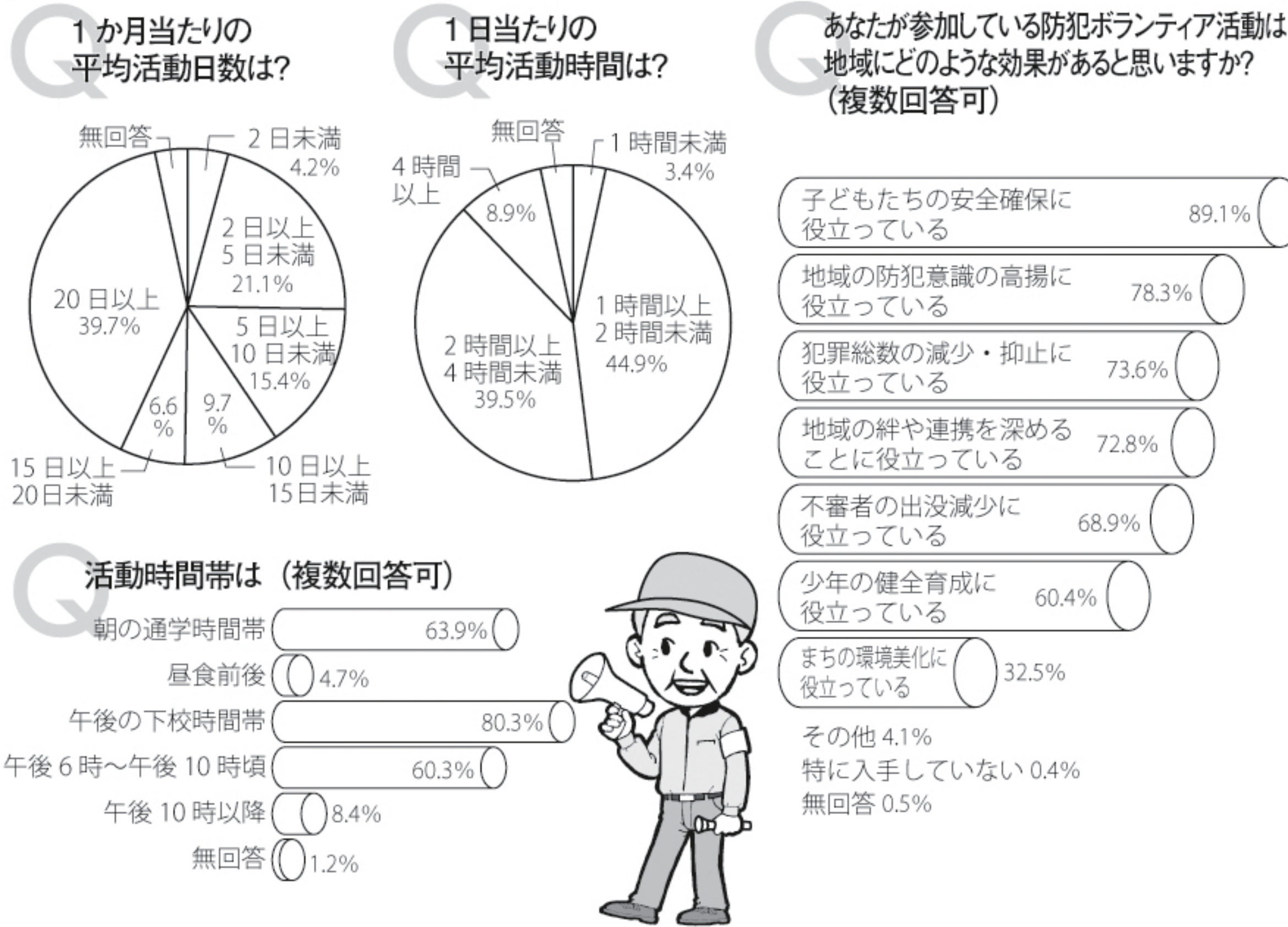
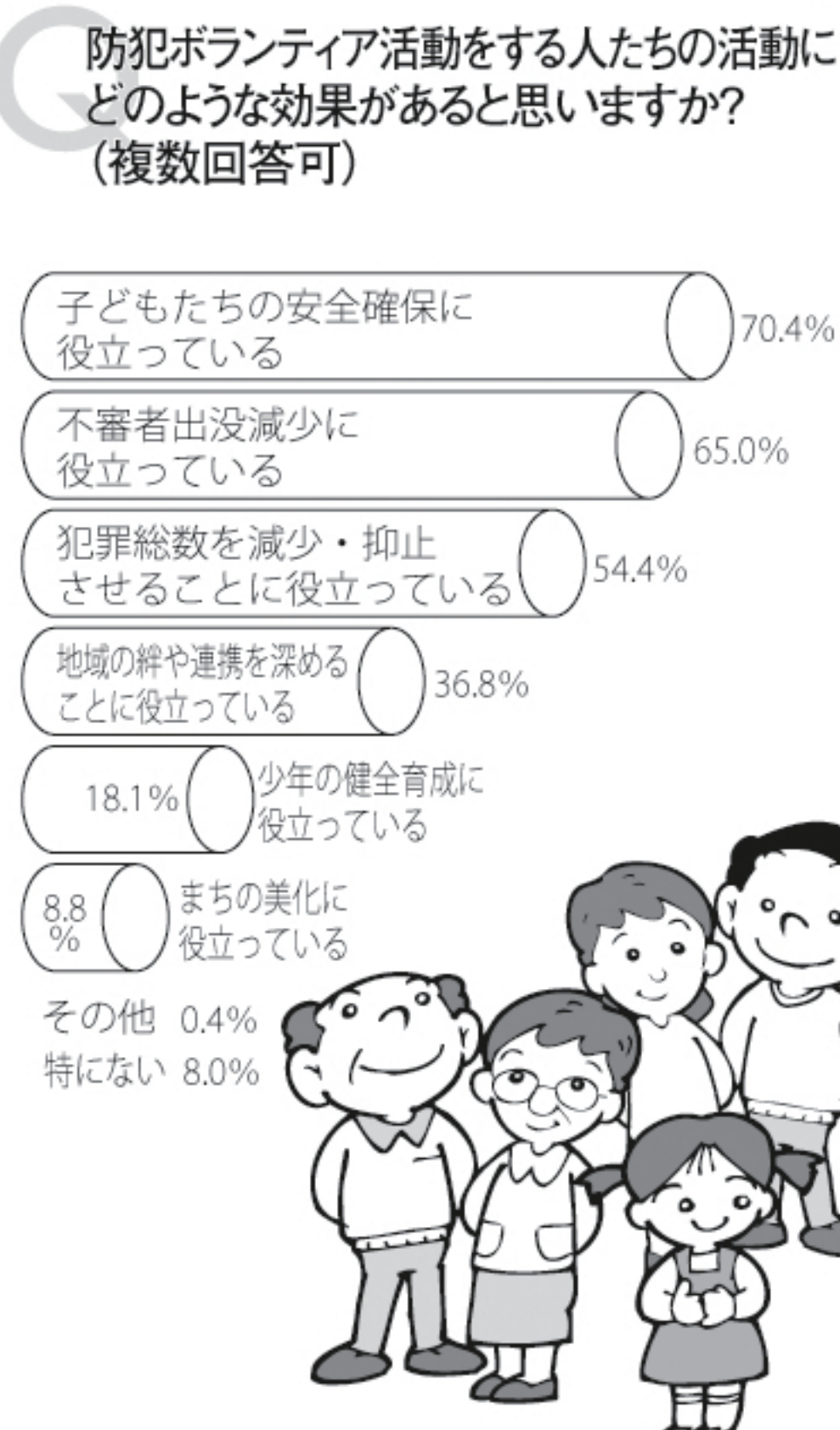


図2 活動地域の住民へのアンケート



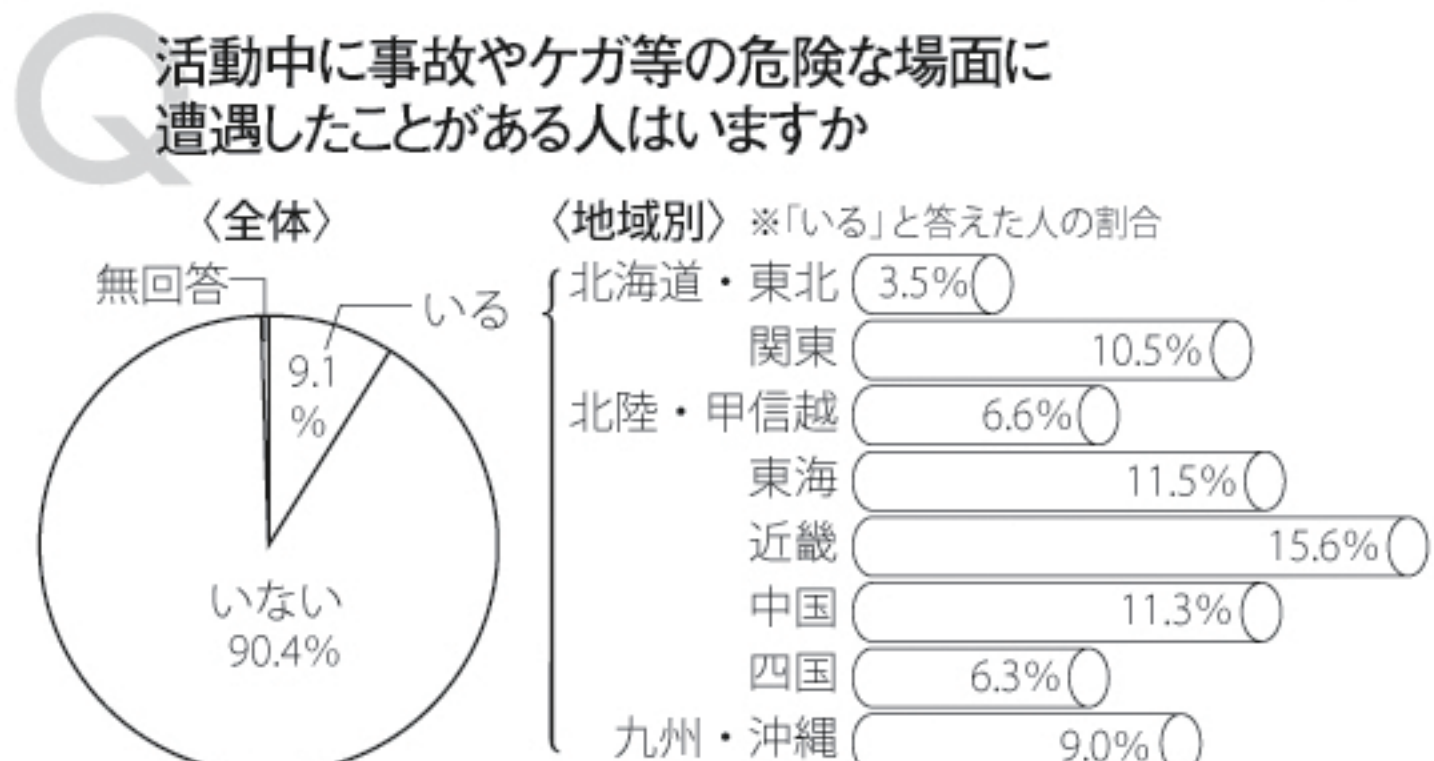
ちなみに、「防犯ボランティアの活動を実際に見かけたことがある」と回答した地域住民は62%にのぼり、防犯ボランティア団体に期待する活動として「防犯パトロール」「子どもの見守り活動」「防犯広報キャンペーン」や「地域安全マップの作成」などを挙げています。

ところで、警察庁の統計によると現在、防犯ボランティアの平均年齢が60歳代の団体が52%を占めており、団体構成は、年齢的に「若い」と言えないのが実態です。さらにリーダーへのアンケート

調査結果を見ると、「活動中に事故やケガ等の危険な場面に遭遇した経験がある」と回答した団体は、全国平均で9.1%を占めており、近畿地方ではこの数値が15.6%にもなります(図3参照)。

加入していない理由は「防犯ボランティア活動保険制度を知らなかった」が36.5%を占め、保険に対する認知度の低さが浮き彫りとなっています。

図3 団体のリーダーへのアンケート



NCN HEAD LINE

児童虐待の有力情報に10万円

警察庁は、「匿名通報ダイヤル」の対象に2月から「児童虐待」も含めました。児童の虐待死などの被害が続いていることから、広く情報提供を呼びかける必要があると判断したもので、被害児童が保護されたり、事件が摘発されたりすれば、最高10万円が支払われます。

列車内で高齢者被害防止キャンペーン

埼玉県警は、地元私鉄の協力のもと、年金受給日に「お年寄りの被害防止キャンペーン」を実施。女性警察官などが列車に乗車し、高齢者に振り込め詐欺などへの注意を呼びかけました。列車内での警察官の広報啓発活動は全国で初めてのことです。

「未公開株」被害者を狙い新手の詐欺

非上場企業の「未公開株」の販売と称してお金を詐取された被害者に対し、救済の手続きをすると偽って手数料などをだまし取る詐欺が急増。未公開株被害者の名簿が流出している可能性もあり、警察庁などでは「救済手続きで手数料を徴収することはない」と注意を呼びかけています。

「電話作戦」で振り込め詐欺への注意を喚起

神奈川県警は、一人暮らしの高齢女性を狙い、電話帳を悪用したとみられる振り込め詐欺が相次いでいることから、電話帳掲載者に電話をかけて注意を喚起する「先回り電話作戦」を全署で展開しました。

新しい小学校用教科書に「いかのおすし」登場

平成23年度から使われる「生活」の教科書の3つに、子どものための防犯標語「いかのおすし」が登場。「行かない」「乗らない」「大声を出す」「すぐ逃げる」「知らせる」の頭文字をとったこの標語は、平成16年に警視庁少年育成課と東京都教育庁指導企画課が考えだしたものです。

警視庁に「ネットハンター」、闇サイトを監視

警視庁は、犯罪の共犯者を募るインターネット上の闇サイトを監視するため、全国初となる専従捜査チームを設けました。掲示板を定期的にチェックし、共犯者募集の疑いがあれば捜査し、摘発したり警告したりします。

「万引き」は必ず通報を!

警察庁は、店が「万引き」被害に遭った場合、すべての被害を警察に通報してもらうとともに、取り締まりも厳しく行うようにとの通達を全国の警察本部に出しました。万引はここ数年14万件台で推移し、この2年間は連続で増加。昨年1年間の逮捕者を見ると、20歳未満が約28%、65歳以上が約26%と、未成年と高齢者で半数以上を占めています。



安心・安全

各地で行われている防犯に関する話題や啓発活動などにスポットをあてるコーナーです。



◀ 東濃西部地区防犯協会（岐阜県）

高齢者が振り込め詐欺に遭わないよう、自治会の行事や老人クラブの会合などで「出前防犯講習」を実施。依頼があれば人数の多少にかかわらず地域に出向き、20分位の寸劇と講話を行い、振り込め詐欺の手口などを知ってもらうことで、被害の防止をはかっています。



札幌西防犯協会（北海道）▶

防犯標語「いかのおすし」を新一年生に学んでもらうため、サッカーJ2・コンサドーレ札幌の藤田征也選手（右下の写真・左）と芳賀博信選手（同・右）が札幌市内の小学校に訪問。「行かない」「乗らない」「大声でさけぶ」「すぐ逃げる」「知らせる」というパネルを手に子どもが自分で身を守るための方法を指導しました。この催しは4月6日、市内中央区の宮の森小学校で入学式後に行われたものです。



掲載にご協力いただき、ありがとうございました。

BOOKSHELF 書棚

高齢者防犯マニュアル
もうダメされないぞ！

沖田八枝子（原作）
森 哲郎（構成）

2007年10月（発刊）

鳥影社



本書は防犯アドバイザーの沖田八枝子さんによる

寸劇の脚本をもとに漫画家の森哲郎さん（2008年病没）が構成した高齢者向けの防犯マニュアル。いろいろな悪質商法や、オレオレ詐欺に代表される振り込め詐欺などの手口と撃退法を、分かりやすくかつマンガで面白く絵解きし、楽しみながら防犯知識を身につけることができます。

高齢者の犯罪被害を防ぐためには、高齢者自身が身近な犯罪に関心をもち、ターゲットにならないための構えをとることが大切で、本書はそのための入門書として最適な3冊です。

ちなみに、原作者の沖田さんは静岡県浜松市の細江警察署管内防犯協会の職員。地域の安心・安全を確保するため、様々な防犯事例を寸劇に仕立てて管内各地で上演しています。

川柳後記

編集後記に代え、防犯をテーマにした川柳はいかがでしょうか。

これ流行？ 万引き道具の

エコバッグ（撤廃レジ袋）

薄明かり ひかれて集う

コンビニ盗（害虫）

ああ無情 受ける虐待

する虐待（子煩悩）

元ダーリン わかれてみれば

ストーカー（元ハニー）

愛してる あなたにお金

あるかぎり（女結婚詐欺師）

足音が 背後にきこえ

小走りに（自意識過剰）

2ロック 2台つないで

どうするの？（勘違い）

いざ鳴らせ 使うチャンスに

電池切れ（防犯ブザー）

通学路 立つてるだけで

怪しまれ（みどりのおじさん）

子どもたち これで安全？

柵囲い（都立公園）